

# 令和6年度 杉並第七小学校 学校経営方針

## 1 目指す学校

### みんな(児童・教職員・地域、保護者)が幸せ Well-Bing になる学校

人権尊重の精神を基盤に、誰もが「この学校に携わってよかった」と思える学校を目指します。この『よかった』と思える感情がもてた状態を「幸せ」Well-Bing と定義します。

- 児童が互いに尊重し、一人一人が自己実現していく学校
- 教職員が共に助け合い、より質の高い教育を求める学校
- ☆地域、保護者が子供たちの成長を願い、喜びを感じられる学校

## 2 学校経営の視点とキーワード

### ○生活指導

キーワード…「心理的安全性」「いじめを見逃さない」「不登校」「インクルーシブ教育」

生活指導は、学習も含めたすべての基盤と考える。そのためには児童の心理的安全性が保たれていることが最も重要であり、必須条件である。これを脅かすようないじめや不登校等に対しては細心の注意を払い、何においても第一に対応しなければならない。

いじめや不登校等はいつでも、だれでも、どこでも起こりうる一種の症状であり、小さな予兆を見逃さない温かく丁寧な観察が大切である。小さな予兆をいち早く見つけるためには、学習規律の徹底が肝要である。いじめや不登校・問題行動等に対しては特に組織的な対応を図る。教員個人の対応に頼る事はサステナビリティ（持続可能性）を失う。

これらの指導の行きつく先として「インクルーシブ教育」をおく。自分もみんなも居心地の良い社会＝共生社会の実現を目指す。

### ○学習指導

キーワード…「楽しい学習」「主体的・対話的で深い学び」「ICT」「個別最適・協働的な学び」

児童の学校滞在時間の75%は授業時間である。学習指導の充実が図られなければ、児童の「幸せ」は実現されない。どんな児童にとっても「分かった・できた」が「楽しい」学習であり、楽しい学習の提供がよい授業である。

そのために主体的・対話的で深い学びを基本とした、授業展開は欠かせない。自らの考えをもち、友達と対話する中で、教科等の見方・考え方を深めていく児童を育成したい。教師が教えるから授業から子供が学ぶ学習への転換です。そのための重要なツールとして1人1台端末を活用したICT教育がある。時間的・空間的制約を受けない1人1台端末の活用を模索したい。これは「どの児童に対しても」であり、特別支援・不登校を含み誰一人取り残してはいけない。支援の大きさによって合理的配慮を施していく。個別最適な学びと共同的な学びを学習指導の実現を目指すべき姿と捉える。

## □働き方改革

キーワード…「ライフ・ワーク・バランス」「メンタルヘルス」「業務の役割分担・適正化」「チーム、教科担任」「担当時間の均一化」

児童の幸せを作るためには、教職員が健康でなければならない。そのためライフ・ワーク・バランスは最も重視する。その中でも教職員のメンタルヘルスには特に留意する。児童同様、教職員間の中でも心理的安全性が保たれた職場環境を構築する。

働き方改革とは、教職員が楽をする改革ではない。教職員が本来業務に注力するための改革である。そのため、業務の役割分担・適正化（平成31年1月25日中央教育審議会参照）を遂行する。学校の管理内と管理外の区別をもち、地域家庭との連携の下で児童の育成に当たる。

児童の発達段階に応じて、チーム担任制や教科担任制を導入し、時間講師の活用と授業時間のスリム化で「空き時間」が確保に努める。こうして教員のメンタルヘルスを確保し年度中に病休者のない学校をつくる。

## □能力開発

キーワード…「校内研究・研究発表」「OJT」「東京都等の研修制度」

教員は、絶えず研究と修養に努めなければならない。どんなにベテランであろうとも、絶えず学び続ける教職員集団でなければ、質の高い教育は提供しきれない。そのため、校内研究の活性化を図る。校内研究はインクルーシブ教育を研究対象に据え学校の教育活動全体の改善を図る。さらに、職層に応じたOJTの組織を作り、組織的に教員育成の活性化を図る。若手教員の育成は学校全体で支援する。杉教研・区のグループ研究、都の研修制度を励行し、自ら校外から見聞を広めてくる姿勢を醸成したい。

## ○地域との協働

キーワード…「学校運営協議会(CS)」「学校支援本部」「地域の教育リソース」「杉七タイム」

学校と地域がWin-Winの関係になる事を目指す。学校運営協議会を中心に、地域の願いと学校の願いを共にかなえていく。また、学校支援本部と連携し、より積極的に地域の教育リソースを発掘、活用する。特に杉七タイム（生活科・総合的な学習の時間）を中核とした地域を材（財）とした特色ある教育活動を展開する。地域の実社会・実生活の中から児童が課題を見出し、探究的な学びを繰り返す中で社会参画を通して課題を解決していく。

## ○家庭教育との連携

キーワード…「学校と家庭の協働」「学校からの情報発信」「学校は間違え育つところ」

家庭・学校・地域など一人の児童は様々な場で影響を受け育つ。児童がかかわる全ての場はいわば教育の場である。学校と家庭の協働の為には、学校からの情報発信が重要である。子供は「間違える」ものであるから、これをどう伝え、児童育成につなげていくかを家庭と考えたい。これも学校としての一定のルールの上で組織的に対応する。保護者会等の機会を通じ保護者同士の横のつながりを意図的に作る工夫も必要である。